

(別添資料1)

事業所名

放課後等デイサービス いがき

5領域を含む支援プログラム

作成日

令和6年

10月

1日

法人(事業所)理念	福祉を通じて、誰もが自分らしく輝ける地域社会を、職員・ご家族・地域の皆様と共に創造する		
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの特性や個性に応じたオーダーメイドのプログラムを作成しながら療育を行い、子供たちが自分に自信を持ち、楽しい毎日過ごせるようにサポートします。 小集団での療育を通して、コミュニケーション力や社会性が育ち、利用者の笑顔と家族に安心・未来への可能性を与えて行けるように支援します。 		
営業時間	9時	0分から	18時0分まで
	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容			
本人支援	健康・生活	健康な生活習慣の促進、健康な心と基本的な生活スキルの獲得 <ul style="list-style-type: none"> 食事、衣類の着脱、排泄、所持品始末、整理整頓、食器洗い、料理、お買い物など、生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 心身の健康のために、服薬管理や睡眠時間、スマートフォン、タブレット機器等の使用、食事への興味関心など、ご家族と共通理解を図れるように相談・情報共有を行う。 障がいの特性に配慮し、構造化された空間の中で過ごし方が分かり、見通しを持ち安心して過ごせるように環境を設定する。 	
	運動・感覚	感覚統合運動：サーキットトレーニングによる粗大運動、対面学習・自立課題による微細運動を中心に楽しみながら様々な体の動かし方を身につける <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な動作の獲得ができるように、遊びの中に粗大運動、微細運動を取り入れる。 感覚統合運動を用いた遊びを通して、様々な感覚を活用した活動を行う。 室内では、サーキットトレーニング、室外では公園遊具を活用し、運動・動作の感覚を身につけられるようにする。 感覚や認知の特性（感覚過敏や聴覚過敏など・鈍麻・体温調整）を踏まえ、環境設定等の支援を行う。 感覚の過敏や鈍麻の緩和を図る為、さらに感覚の統合を促すように一人ひとりに応じた感覚統合運動を行う。 姿勢保持や各種の運動、動作が困難な場合補助的手段を使用する。 	
	認知・行動	学習支援・コグトレ・認知行動療法・ソーシャルスキルトレーニング（社会的技能訓練）を行い認知の発達と行動の習得を目指す <ul style="list-style-type: none"> 数概念、運筆、ひらがな、カタカナ、色や形など、基本的な学習の習得が出来るように支援する 認知や行動の手掛かりとなるよう、絵カードやタイマー、具体的な声かけなどを活用し、行動の理解を促す。 周りや場所を見て何をすべきか分かるよう、構造化された空間作りを行い、自信をもって行動できるようにする。 認知の特性を踏まえ、情報を適切に処理し、理解できるように、コグトレやSSTを行う。 障がいの特性や、個の理解力・達成度を把握し、それらに応じた課題や教材を整え、出来る事が増えるように支援する。 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、適切行動への対応を行う。 	
	言語コミュニケーション	人と関わることの楽しさや、伝えようとする気持ちを育てる <ul style="list-style-type: none"> 特性に合わせて、指差し、身振り等を用いて環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。 特性に合わせて、読み書きができ、コミュニケーションとして使えるように支援する 話し言葉や、コミュニケーションツールを用いて、相手の意図を理解したり、自分の想いを伝えられるようにする 理解する事、表現する事、ができるようになり、それらを用いて他者とやり取りが出来るように支援する。 お友達や支援者と言葉を用いた関わりが出来るように小集団の遊びの中で楽しく学べるようにする。 	
人間関係社会性	レクリエーション活動・グループワークを通して、集団行動と気持ちのコントロールを身につける <ul style="list-style-type: none"> 一人遊びや一人活動から他者を意識した遊びや活動が出来るように、人と協力することや関わることの楽しさを伝える。 勝つ事、負ける事、楽しい事、悔しい事などの経験から、感情や行動の調整が出来るように支援する。 小集団の中で、協力する事、達成する事の楽しさを体験できるようにする 事業所外療育を通して、その場に合わせたルールやマナーを知り、守りながら活動できるように支援する。 集団活動に参加するためのルールや手順を理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。 グループワークを通して、自分中心から、脱中心化を図り、客観的思考、他人視点の物の見方が出来るように支援する。 相手の話を聞きながら、周りの様子を見て、考え、分からない時には聞いたりしながら、適切に行動し自立できるように支援する。 		
家族支援	定期的な面談日設ける他、送迎時に療育時の様子や経過を報告、情報共有を行う。相談等ある場合は随時電話対応や面談を行っている。	移行支援	ライフステージに合わせ、保育園、学校、児童クラブ・事業所など、施設への訪問・見学・情報共有を行っている。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関や医療機関の情報共有、訪問 ケース会議や各関係機関との会議へ参加 地域の子供部会・連絡会への参加 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> 日々の朝礼、終礼での情報共有や支援方法の確認 朝礼時の勉強会・身体拘束適正化・虐待防止研修(年1回) 外部研修会への参加・外部講師を招いての研修会
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> 季節の行事(お花見、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、バレンタインなど) 避難訓練(地震、火災、水害を想定) 事業所外療育・地域交流 		